保存処理前の出土鋸（実寸）

石神遺跡出土の鋸（のこぎり）

2006年の石神遺跡18次調査で出土した木柄付き鋸です。天武・持統朝（７世紀後半）の溝からみつかったもので、木製の柄が完全な形を残していました。現存長は44.5cmですが、使われていた当時は、もっと長く、立派な歯を兼ね備えていたと思われます。

石神遺跡のものと似た鋸が、法隆寺の献納宝物にあります。それは、奈良時代に製作されたと考えられており、石神遺跡出土鋸と時期的に接近しています。両者は柄の形態が似るなどの多くの共通点があり、古代の鋸として比較検討が可能となりました。

鋸の出土例は全国でも少なく、また、ほぼ完全な形を残して出土した例は他にないため、大変貴重といえます。そして、都城周辺地域において鋸が出土した意義は大きく、古代の建築技術や大工道具の歴史を考える上で大きな手がかりとなるでしょう。

（都城発掘調査部　長谷川 透）

保存処理された出土鋸